

病害虫発生予察特殊報第4号

平成12年1月14日
三重県病害虫防除所

東紀州地域のかんきつ類で発生しているマルカイガラムシ類のうちの一つが、アカマルカイガラムシと確認されたので特殊報として発表する。

1. 病害虫名 アカマルカイガラムシ
Aonidiella aurantii (Maskell)

2. 発生確認作物名 かんきつ類

3. 発生確認地域 東紀州地域

4. 発生確認の経過

近年東紀州地域のかんきつ園でマルカイガラムシ類が増加傾向にあり、枝葉や果実への被害が問題となっている。そこで同地域でマルカイガラムシ類の寄生した枝葉や果実を採取し、寄生種の確認をおこなった。

寄生枝葉や果実の採取は、平成11年11月に南牟婁郡紀宝町田代のセミノール園1箇所、南牟婁郡御浜町下市木の早生温州園2箇所、同町神木のサマーフレッシュ園1箇所、同町志原の早生温州園1箇所の計5箇所でおこない、同定は東京農業大学農学部の河合省三博士に依頼した。同定の結果、すべてのサンプルにアカマルカイガラムシの寄生が確認された。

アカマルカイガラムシは従来九州、南西諸島、小笠原を中心とした暖地に分布することが知られてたが、昨年には愛媛県でも発生が確認されている。

5. 特徴

(1) 形態

色調は淡黄色～淡赤褐色で、雌成虫は直径2mm前後のほぼ真円形であり、雄蛹は長径1mm前後の長円形である。卵は雌成虫の殻の下に産み出され、ふ化した幼虫は寄生植物上に移動し定着後白い口物質や赤褐色の殻を分泌し体をつつみ成長していく。雌は幼虫、成虫とも寄生場所に留まるが、雄は成虫になると羽化して飛び出す。

(2) 発生生態

本種は年間で3～4回発生するが、通常幼虫ふ化のピークは3回みられ、第1世代は5月～6月、第2世代は7月～9月、第3世代は10月～12月にそれぞれ発生する。

第1世代幼虫は主に枝葉に寄生し、第2世代以降は果実にも寄生する。枝葉への寄生密度が高くなると枝枯れを引き起こし、果実に寄生すると著しく商品価値を低下させる。

6. 防除対策

- ・ 冬期にはマシン油乳剤の散布をする。
- ・ 第1世代及び第2世代の若齢幼虫が最も多く寄生している時期（6月及び8月頃）に防除を実施する。

アカマルカイガラムシに対する登録薬剤

| 薬剤名 | 安全使用基準（使用時期／使用回数） | |
|----------|-------------------|-----------|
| | かんきつ | みかん |
| スプラサイド乳剤 | 収穫90日前／4回 | 収穫14日前／4回 |
| アプロード水和剤 | 収穫45日前／3回 | 収穫14日前／3回 |
| エルサン乳剤 | | 収穫14日前／5回 |
| ミカノールS | | 収穫60日前／3回 |
| ハーベストオイル | 冬期／3回 | |